

# なかま

プリンストン日本語学校新聞



平成25年度 No.17号

平成25年 9月15日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

七年後 伸びゆく子らの 秋祭り  
秋の陽は 地平線まで 大豆です

## 今後の行事予定

- 9月29日 前期最終日(通知表渡し)  
幼稚部親子ピクニック
- 10月6日 後期開始 秋祭り
- 10月13日 参観日小5小6(1校時参観2校時懇談)中、P中高(3校時参観4校時懇談)
- 10月20日 参観日小1小2(1校時参観2校時懇談)小3小4P小(3校時参観4校時懇談)
- 10月27日 漢字検定

「平和祈念式典の平和の誓い」を読んで 6年生

### 宮内れい

「平和とは安心して生活できること・・・」私も同じことを思う。この作文をみんなに読ませたいです。こんなに上手に書けたのがすごいと思いました。すごく伝わります。最後の二行の文章がカッコいい言い方だと思いました。バトンをつないだらこの世界がもっと平和になると思います。

### 佐藤麗奈

「平和は安心して生活できること、一人ひとりが輝いていること。みんなが幸せを感じること」が書いてあった部分は、私も考えていることでした。それで、平和のことを未来へと伝えたら世界がもっとよくなると思いました。これを読んだ後、平和の大切さがわかってきました。すごくよく書いていて、いろいろないい考えが書いていたと思いました。

### 金田 愛

この文章はとて 6年生が作った文とは思いませんでした。最後のところの「さあ、一緒に平和を作りましょう」ということをうたっているのがとてもいいことだと思います。みんなに自分たちの思いを言っているのがよい。いつも起きているふつうのことがとつぜんおこらなくなるということは、とても大変なことだと思います。原爆のとき体に傷を負って亡くなった人などはたくさんいると思います。でも、一番傷が深いのはやはり人の心だと思います。自分の親が亡くなったりすれば心には深い傷が付きまします。そのようなことから、大切なバトンをつなぎたいと思います。そして、世界中のひとにこの文を伝えて、世界中の人たちが平和になってくれたらいいと思います。



プリンストン日本語学校が注目されている！

本校の特徴は、日本文化や日本語に興味があり学ぼうとする人たちの誰もが学べることです。アニメが大好きで日本語でそれを理解したいと考えている人から、数年後には日本に帰国し進学しないといけない人まで、目的が異なる多くの生徒が同じ校舎で学んでいます。このようなタイプの学校は他にはありません。幼稚部と高等部、アダルト、それに補習校部、継承語コース、JASLの3コースからなる教室で学ぶことの利点は、それぞれ途中でコースを変えることができることです。その結果、いつも自分にとって必要な日本語を、継続して興味深く学ぶことができるのです。

また、その運営についても工夫がなされています。教育第一部長(私)が小・中の校務と学校行事について、教育第二部長(小野先生)がその他の校務について、協力して責任を持って取り組んでいます。さらに学校行事等では、すべての保護者の豊かな知力と行動力が発揮されて、他ではあまり例がないような有機的な組織になっています。

日本政府は世界進出する企業などを支援するだけでなく、日本がさらに発展するためには、もっと多くの多言語が堪能な人材を育てなければならないと考えています。それなのに、これまでずっと補習授業校の目的を、帰国する小・中の子どもたちだけを対象にしてきました。さすがにこれではまずいのではないかと考える人が多くなり、駐在員子女を対象にしてきたこれまでの制度を見直そうとする動きが政府内に出てきました。

そこで、これからあるべき在外教育施設の一つとして、一躍本校の取組みが内外の注目を集めるようになったというわけです。建学の精神『日本語や日本文化を学ぶ意欲のあるすべての人に門を開く』が、大きく脚光を浴びようとしているのです。

理事会や総務オフィス、父母会の皆さまの強力なタッグによって運営されているプリンストン日本語学校は、もうそれだけで十分評価されるに値する存在です。コースを越えて助け合いながら、助け合うことが当たり前のような雰囲気の中で運営される学校は、ある面でこのような学校組織の理想型であるとも思われます。

本校でのこうした試みは、これから本校を参考にして多くの人材を受け入れる学校を作ろうとする人たちの手本になることは間違いありません。

PCJLSが注目される理由が幾分お分かりいただけでしょうか。カルダー理事長はじめ創立以来の多くの先生方の取組みがあればこそこの学校であり、これからも理想型を目指してこれから益々成長していかなければならないと思っています。